

Heroldo de HEL

N-ro 59 oktobro-novembro 1995

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

053 苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
ĉe Acuŝi HOŜIDA
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

Nova provo kaj averto de
ĈIKAŬA (ITIKAWA) Fusae
新しい試みと市川房枝の警告
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 2

Salutmesaĝo de la prezidanto de la
Nordorienta Esperanto-Ligo (N.O.E.L.)
al la 59-a kongreso de Esperantistoj
en Hokkajdo
東北エスペラント連盟より第59回北海
道エスペラント大会へのメッセージ 3

Protokolo de la 59-a Hokkajda
kongreso de ESPERANTO
第59回北海道エスペラント大会総会議
事録
(OOGA Toŝio 大鋸敏夫) 4

Riceitaj poŝtaĵoj (A. HOŜIDA)
受領郵便物 (星田淳 扱い一読みたい方
はお知らせください) 6

Mesaĝo de Hokkajda Esperanto-Ligo al
la 36-a TOHOKU-KONGRESO DE ESPERANTO
第36回東北エスペラント大会へのメッ
セージ Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 7

Informo お知らせ
La 2-a novjara kurso kaj Kunveno
第1回新年講習会と新年会
Komitata Kunveno de HEL
HEL委員会
ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 8

Raporto de la unua Komitata Kunveno
de HEL
第1回HEL委員会報告
Emiko BABA 馬場恵美子 9

Lingvo-instruado kaj la ideo de
internacia lingvo
Kial la angla ununura ne taŭgas
por ĝia bezono?
Satoo Ŝ. 10

Saluto (reanigi al HEL)
HEL再入会の弁
Mituisi K 三ツ石 清 13

HEL DANKAS (-os) POR VIA KOTIZADO
会費のお礼
ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 14

北海道エスペラント連盟規約 15

Informo de Sapporo Esperanto Societo
札幌エスペラント会からのお知らせ
ザメンホフ祭, 入門講座
Emiko BABA 馬場恵美子 16

道大会2日目(10月1日)の市民向け講演会



新しい試みと市川房枝の警告

Acusi HOSIDA

Ĉi-jare ni havis novan provon okaze de nia Hokkajda Kongreso de Esperanto, partopreni en la Festivalo de Kontinua (Dumviva*) Lernado por havi sancon informi vastan publikon pri nia afero.

Pro tiu provo nia ĉi-jara kongreso havis alian tagordon ol la ĝisnunaj. En la unua tago ni havis kongresan kunvenon, kaj en la dua tago prelegon, unuhoran(ekspresan) kurson kaj ekspozicion por civitanoj.

La partopreno en la Festivalo, tiu granda eventaro, portis bonan rezulton al nia afero. Pro tiu sperto ni povis scii, ke ekster esperantujo troviĝas vasta kampo, kie nia afero povas sin montri kaj informi la publikon pri sia signifo. Ni povos serĉi taŭgajn lokojn por niaj efikaj agadoj. Ekzemple, kelkaj lokaj grupoj en Honŝuo sukcese progresigas amikan riaton kun esperantistoj en siaj ĝemelaj urboj. Tio ankoraŭ ne prosperas ĉe ni en Hokkajdo.

Kiel ni bone scias, "esperantisto estas ĉiu persono, kiu scias kaj uzas la lingvon Esperanto", laŭ la Bulonja Deklaracio. Libere komunikadi, interkomprenigi trans la limoj per neŭtrale homa lingvo, estas nia rajto kaj privilegio. Tamen rajtojn ĝenerale oni bezonas tenadi per konstanta klopodado, kiel la artikolo 12 de la Kontitucio de Japanio montras.

今年の北海道大会では、生涯学習フェスティバルへの参加によって広く一般市民にエスペラントを知らせるといふ新しい試みをやってみました。

この試みのため、日程も従来の物と変えて、第1日に大会を、第2日に市民向け講演や講習、展示を行うようにしました。

この大きなイベント(フェスティバル)参加の効果は上々でした。

この経験からエスペラント界の外に我々が出ていってPRできる広い分野があることがわかりました。

このような分野はもっと開拓できると思います。一たとえば本州の地方会では姉妹都市のグループとの交流を効果的に進めているところがありますが、北海道ではまだ盛んではありません。

よく知られているように「エスペランティストとはエスペラントを知っており、使っている人という」とブローニュ宣言は述べています。

中立の言語によって国境を越えて自由に意思を通じ理解し合うことは我々の権利であり特権とも言えます。しかし一般的に権利とは日本国憲法12条にあるように、不断の努力によって保持されねばならないものなのです。

Nun mi rememoras la vortojn de bone konata feministino IĈIKAŬA Fusae, "Ne dormu sur la rajtoj". Ŝi opiniis, ke akiritaj rajtoj baldaŭ perdiĝos, se oni ne uzos ilin - sen uzo la rajtoj estas nuraj literoj sur papero. Ŝiaj vortoj taŭgas bone ankaŭ por ni, esperantistoj, ĉu ne?

有名な婦人運動家 市川房枝の
「権利の上に眠るな」という言葉が思い出されます。得られた権利も行使されなければ失われてしまう - との意味です。行使されない権利は紙の上の文字に過ぎません。これは我々エスペ란ティストにもあてはまるのではないのでしょうか。

* 「生涯学習」に対して J E I は Kontinua Lernado を使ったが、Dumviva L- はどうでしょうか？

Salutmesaĝo de la prezidanto de la Nordorienta Esperanto-Ligo (N.O.E.L.)

al la 59-a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo

東北エスペラント連盟より第59回北海道エスペラント大会へのメッセージ

Nome de la prezidanto de N.O.E.L. kaj reprezentanto de la ihatovaj e-istoj mi volas sendi al ĉiuj partoprenantoj el kaj ekster Hokkajdo mian plej koran saluton, dezirante al vi ĉiuj agrablajn travivaĵojn kaj fruktoplenajn sukcesojn en la kunsidlaboro.

Ihatovo ĵus fieris gastigi la 36-an Tohoku-Kongreson de Esperanto kiel antaŭeventon de l'Festo Mijazaŭa Kenĵi Centjara, kuniginte en la urbo de Hanamaki pli ol 90 geesperantistojn el 17 gubernioj, ĉiujn ligitajn per amo kaj sopiro al tiu poeto, kiu

multe helpis okazigi Esperanto-kurson en la urbo jam antaŭ 63 jaroj.

Karaj, kiam Kenĵi vivis, nia regiono ankoraŭ ne konis kion fari por kolekti verdstelulan kongreson. Do mi miras, ke vi esperantistoj en Hokkajdo ĝuste tiam jam kongresis! Estas ja multe en viaj heredaĵoj, kiuj meritas sincerajn sekvon kaj studon fare de agemaj posteuloj ĉie ajn en nia lando.

Satoo S., prezidanto de N.O.E.L.

Mijako, Ihatovo, 1995-09-30

第 59 回北海道エスペラント大会総会議事録

■日時：1995年9月30日

■場所：北海道母子福祉センター

■開会宣言：札幌エスペラント会の木村喜壬治が開会を宣言した。

■議長選任：総会の議長に馬場恵美子を、書記に大鋸敏雄を選任した。

★議長挨拶、La espero 合唱、委員長挨拶があった。また、この1年に亡くなった HEL 会員アリマヨシハル、牧敏弘、新田為男の3名を偲んで黙祷を行なった。

■報告事項

◆1：地方活動報告

1. 札幌：馬場から報告。10/9 にオーストラリアの E-isto、Bernd Wechner(坂東上久根)氏の歓迎会を行なった。12/10 ザメンホフ祭でバザー、人形劇を行なった。6/3、4 北大祭の E 展に協力した。6 月から7名参加で入門講習会を行なっている。また毎週土曜日に2クラス、月2回木曜日に1クラスの勉強会を行なっている。
2. 苫小牧：星田から報告。月4回の例会を本町公民館で行なっている。12/19 ザメンホフ祭を7名参加で行なった。1/19 苫小牧の新年会を行い7名参加、札幌からも2名参加した。1/22 の HEL の新年講習・合宿にも参加した。入門講習は参加者がなかった。8/24~27 公民館祭に参加、来場者 3500 人程度で、そのうちかなりの人が見ていると思われる。
3. 室蘭：須藤昭三から報告。昨年の道大会への協力に感謝。講習会はこれからやろうと計画している。
4. 岩見沢：渡辺晋道から報告。ちらし広告で3名の問い合わせがあったが、講習会は実現しなかった。来年を目標に岩見沢エスペラント会を HEL の地方会にしたい。
5. 北大：大鋸から報告。3名で勉強会を始める。北大祭でエスペラント展を行なった。

◆2：HEL 活動報告

☆事務局の馬場が1~4を報告した。

1. 役員会を9/26、11/22、5月、6/17、9月の5回行なった。
2. Heroldo の発行は53号から57号の5回。
3. 新年講習会では1/22 に札幌かでする2・7で行ない、大江健三郎の作品のエスペラント訳を読んだ。17名参加。
4. 合宿を5/26~28 に岩見沢法然寺で行なった。11名参加。参加者が伸び悩みで目先を変えるなどの対策を考える。

◆3：会計・監査報告

5. 会計決算報告が会計よりなされ、会計監査から監査した結果、報告書に誤りのないことが報告された。

☆役員会の活動費・交通費をもっと増やして役員負担を小さくしてはどうかという意見があったが、J E I でも役員の旅費を全額負担するわけではなく、会員70人の地方組織では難しいとの説明があった。

☆1~5は拍手をもって了承された。

■提案事項・審議事項

◆1. 会計から「規約第8条(財政)」に係る改正案が提案された。提案内容は次の3点。

提案1. 96年の会費から会費を3000円とし、家族会費(1000円)、購読会費(2000円)は据え置く。ただし95年12月31日までに支払われる会費は、従来通り2000円で受け付ける。2000円で支払うことの出来る会費は、99年分までとする。

提案2. ヘルロルドの発行回数を年4回とし、無料送付先を見直す。

提案3. 各事業での参加費から、剰余金を生むように会費を高めに集める。

☆提案2に対し、従来通り年6回を努力目標とし、実際には原稿の集り具合などを見て弾力的に運用するという修正があった他は、原案通り承認された。また寄附も募ることになった。

◆2. 教育部から「北海道エスペラント連盟講師認定制度」の設立案が提案された。提案された条文の内容は以下の通り。

1. 目的：エスペラントの普及を計って後進を指導できる者を育成するため、また、その指導者に社会的な肩書を与えるため、そして、その資格を学習者の目標の一つとするために、「講師認定制度」を設ける。
2. 講師認定審議会：北海道エスペラント連盟委員長の選任により、委員長を含んで3人以上、5人以下からなる講師認定審議会を設ける。

3. 講師の級と認定基準：

- 1) 「北海道エスペラント連盟認定入門講師」は、J E I 検定3級を持つ者。
 「北海道エスペラント連盟認定初級講師」は、J E I 検定2級を持つ者。
 「北海道エスペラント連盟認定中級講師」は、J E I 検定2級を持つ者で、「講師認定審議会」が設けた試験に合格した者。
 「北海道エスペラント連盟認定上級講師」は、J E I 検定1級を持つ者。
- 2) 上記のJ E I 検定資格を持たない場合は、「講師認定審議会」が設けた同程度の試験に合格した者。
- 3) 上記の学力を持つ者で、北海道エスペラント連盟の各事業などに、積極的に参加、協力している者。

4. 「認定講師」の認定方法と委嘱：

- 1) 講師の認定を希望する者は、事務局に申し込む。
- 2) 「講師認定審議会」は、全員の賛成を以て、各講師を認定する。
- 3) 北海道エスペラント連盟委員長は、必要に応じて、各認定講師に講習会の講師を委嘱する。

☆この提案に対し講師の資格をもたない者が教えることを懸念する意見があった。提案側は、この資格は講師の対外的な権威付けであって、資格をもたない者が教えることを制限する意図はないと説明した。これに対し、講師に必要なのは権威などよりも、意欲とボランティア精神と時間ではないか、との意見があった。提案側は肩書など必要ないという個人的な信念を曲げてもらう必要はないと説明した。講師の検定制度ばかりでなく、講習の内容や、いかにして講習を活発にするか、入門者を初級コースにつなげる方法などを検定委員会で考えてほしいとの意見もあった。現状を考えるとこの制度は理想に走りすぎた時期早尚なものだという反対意見もあったが、講師認定制度を設けること自体は賛成多数で承認された。ただし内容については、役員で検討しなおすことになった。

◆3. 大会名称変更の提案

☆木村喜壬治から提案があった。現時点では北海道エスペラント大会の訳語は Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo であるが、これには Esperanto の語がはっきりと出ていない。これをはっきりと出した名前に変更したいとのことであった。提案された案は次の3つ。

Hokkajdo-Esperanto-Kongreso ・ Hokkajda Kongreso de ESPERANTO ・ Kongreso de Esperanto en Hokkajdo

☆委員長からこれは規約の改正になることが指摘された。

☆まず、名称を変更するかどうかについて採決し、賛成多数で変更することに決まった。その後、どの案にするかを採決し、Hokkajda Kongreso de ESPERANTO が賛成多数で新名称に決まった。

★来賓の佐藤勝一氏が到着し、挨拶があった。また、J E I 理事長のヤマサキセイコー氏からのメッセージを委員長が読み上げた。

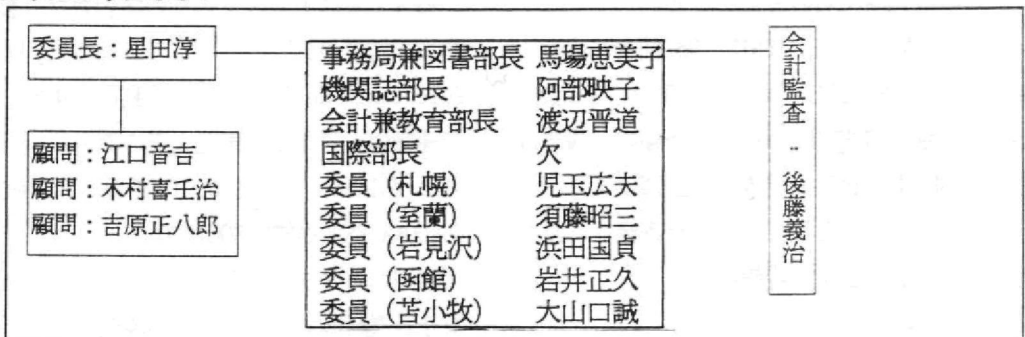
■H E L の活動方針案

☆予算書の説明と事業の予定が会計より合わせて説明され、原案通りに承認された。

■役員改選

☆会計監査の金森美子が監査を辞退し、後藤義治が後任にあたることになった。

☆組織図は次のようになる：



■次期開催地：96年の大会は9月28、29日に岩見沢で行なうことが決定された。

■動議：星田をJ E I の評議員に推薦しようとの呼びかけがあった。

（文責：大鋸敏雄）

Riceitaj postajoj (A. HOSIDA)

受領郵便物 (星田淳 扱い—読みたい方はお知らせください)

*1996年版「北海道年鑑」(官公署団体名簿編)
作成のための資料提供のお願い(6/20受取)

北海道新聞社より。記載事項に変更なしとして
返送しました。

*La Movado N-ro 532 jun. 1995

関西、東海、九州、四国など地方大会の記事、又
95北海道エスペラント合宿の記事(馬場恵美子)
も。朝比賀昇の「言語と戦争」は注目すべき内容。

*La Movado N-ro 533 jul. 1995

北大の展示、道大会「まなびピア参加」の記事も。

*La Movado N-ro 534 aŭg. 1995

道大会第2報あり。

*La Movado N-ro 535 sep. 1995

前号から始まった VOJAĜO EN BHARATOが面白い。
Bharato? Alinome Hindio aŭ Hindujo!

*La Movado N-ro 536 okt. 1995

巻頭に東北大会と北海道大会の記事(「まなびピ
ア'95」に参加して—馬場恵美子)が並んで2頁迄。
相川節子(京都)の「講師交流会をこれからも」
は我々も考えるべき問題。

*VERDA MONTETO N-ro86; majo, junio 1995

*VERDA MONTETO N-ro87; julio, aŭgusto 1995

*VERDA MONTETO N-ro88; Sept., Oktobro 1995
和歌山県立図書館の国際語関係図書一覧、フラン
ス人からの核実験反対の意見、など。

*Mejlstono; N-ro 130, JUNIO '95, 仙台 E会

*Mejlstono; N-ro 131, OKTOBRO '95, 仙台 E会

S-inoj 三瓶の GRESILLON報告、斉藤の UK報告は
各2頁の ESP 文。北京の世界女性会議にエスペラ
ンティストグループとして参加した斉藤さんたち
の活躍ぶりを伝える河北新報の記事も。

*「マナビイ」のカラーシール

大(直径200mm), 小(100mm), 各10枚。

第7回生涯学習フェスティバル実行委員会北海道
事務局よりの事務連絡: 雑 7. 7. 17

*まなびピア95北海道「回覧板」No. 1(雑7. 7. 20)

前項事務局より HEL事務局(馬場恵美子)宛

*「まなびピア'95北海道」前夜祭、開会式、閉
会式のご案内

*「まなびピア'95北海道」参加団体への謝辞
(実行委員会会長、堀知事名)、アンケートの依
頼も同封(11月17日期限)

*Novajoj Tamtamas: n-ro105, julio 1995: Inter-
nacia gazeto de Jokohama EsperantoRondo(JER)
A5版8ページ、tute en Esp.

*Novajoj Tamtamas: n-ro106, Septembro 1995

*La Tamtamo: n-ro 260, julio 1995: La Organo
de Jokohama Esperanto-Rondo(JER)

A5版8ページ、日本文

*La Tamtamo: n-ro 261, Septembro 1995

横浜エスペラント会は、上の2種類の機関誌、
ESP. 文、日本文各8ページを毎月発行している。

*Bonvenon al Jokohama... ようこそ横浜へ

*la ihatovaj esperantistoj

N-ro 95/01, 03, 05, 07

イーハトヴ・エスペラント会発行、A4版1枚
2ページ、Redaktas Satoo S. (佐藤勝一)

毎号1頁はイラスト入りの学習教材、裏は〔原
作文学鑑賞の頁〕として Tibor Sekelj の
Kolektanto de Ĉielarkoj (虹の収集家) が対訳
で連載中。第36回東北大会の案内同封。

*La Vulkano: N-ro130, 1995. 06: LA ORGANO DE
HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO

「福岡エスペラント会テレホンサービスの可能性」
留守番電話機でできる、との説明。

*La Pontego: N-ro 6 1995 oktobro: Organo de

Kagaŭa Esperanto-Societo; B5版32頁中Esp. 文
13頁半。今年の横浜の後、日本大会は西へ行く。
96年広島、97年は池田(徳島県)。四国連盟は
もう大会準備を始めている。以下「一つの世界と
一つの言葉」(S-ro三好鋭郎)の1部引用。

6月サンフランシスコでの世界連邦会議で「世界
連邦運動とUEAが協力するように」と(英語
で)呼びかけた—英語の会議にはよく出るが、
どうしても十分に主張できない—言語の不平等
があり、母国語の違いで生涯差別を受ける—、
ロマン・ローランは「一生に習得できるのは六か
国語が限度だが、エスペラントを習えば青春が始
まる」と述べた—など。

* Al Vi Kara : N-RO 75 (1995 Okt.): Kioto-
Esperanto-Societo; B5版24頁のうちエスペラント
文は1ページ。Informoj eksterlandaj と ANON-
CETOJ EL LA MONDO は海外雑誌記事などの翻訳紹
介。「名文句クイズ」は面白い試み。

例: Ĉu esti aŭ ne esti, tiel staras nun la
demando. だれの言葉でしたっけ?

* Hokkaidō Rōmazi Kenkyū: No. 84 (復刊58号),

Hes. 7n. 10gt. 25nt. 北海道ローマ字研究会発行
B5版4頁のうちローマ字部分は合計1頁半位。

「だれもが賛成するローマ字論」は運動の趣意書
「なぜ今ローマ字か?」の見直しを論ずる。「姓
と名の順」は道大会での佐藤講師の話にもあった
人名表記の「姓→名」順の合理性を述べる。会員
紹介欄に MITUISI Kiyosi の名あり。エスペラント文学
研究者、—北海道が好きで70回以上渡道—と紹
介されている。

* センター通信: 1995年11月6日発行 N-ro186,
Nagoja Esperanto-Centro(名古屋エスペラントセンター)。
B5版8頁のうちエスペラント文1頁半。ハヶ岳エ
スペラント館で9月に行われた「小セミナーの趣
のある合宿」について「第1回Mont'Okの
報告(山口)」と、このセミナーで講演したS-ro
KIMURA Goro による"Raporto pri Mont'ok 95"
の二つの記事(対訳ではない)。木村護郎氏につ
いては「名古屋出身、東京外大学生、ドイツ留学
を終えて帰国したばかりの新進気鋭—」と紹介
されているが北大Grupo のF-ino 木村園子のお兄
さんとのこと。

M e s a g o d e H o k k a j d a E s p e r a n t o - L i g o

A l l a 36-a T O H O K U - K O N G R E S O D E E S P E R A N T O

第36回東北エスペラント大会(9月23~34日)へ次のメッセージを送りました(星田)。

Karaj gesamideanoj,

Por mi estas granda honoro kaj ĝojo havi
sancon saluti vin en la nomo de Hokkajda
Esperanto-Ligo, okaze de la 53-a TOHOKU-
KONGRESO DE ESPERANTO.

Lastatempe troviĝas en via distrikto tre
unikaj agadoj, kiuj montras al ni najbaroj
ja imitindajn ekzemplojn en nia movado. Tiu
unikeco ŝajnas via loka koloro kun multaj
 eminentaj unikuloj, el kiuj la plej konata
 estas MIJAZAŬA Kenji, por kies centjara

jubileo havas rolon ankaŭ via kongreso.

Ni esperantistoj en Hokkajdo elkore dezi-
ras la sukceson de via kongreso kaj volas
fortigi nian kunlaboron por la venko de nia
komuna afero. Vivu la amikeco inter gesami-
deanoj en TOHOKU kaj Hokkajdo!

Vivu Esperanto!

Acusi HOŠIDA

Prezidanto de H. E. L.

第2回新年講習会と新年会のお知らせ

96年の幕開けも、エスペラント語の学習で始めましょう！

HEL主催の新年一日講習会は、今回で2回目です。皆さんの参加をお待ちしています。

★新年講習会★

日 時：96年1月27日（土）10時～15時

場 所：東北会館（札幌市中央区北2条東2丁目）011(251)8118

地下鉄東西線バスセンター前下車5番出口徒歩8分、または、

市営バス [ファクトリー線] 北2東3下車（五番館西武に停留所あり）

講習内容：[星新一のショートショートを読み、翻訳の問題点を論ずる]

今回のヘロルドに掲載の作品を、必ず、予習してきてください。

受講費：1,000円 #お弁当を用意されると、時間の無駄が省けます。

★新年会★

日 時：1月27日17時～19時

場 所：札幌葡萄酒館（北2条東4丁目サッポロファクトリーレンガ館1階）207-5222

地下鉄 [上記]、並、市営バス [上記] サッポロファクトリー前下車

新年会費：3,500円

申し込み：参加希望の方は、1月20日までに、馬場まで電話でお申し込み下さい。

TEL 011(761)8060 FAX兼 21時以降

Komitata Kunveno de HEL

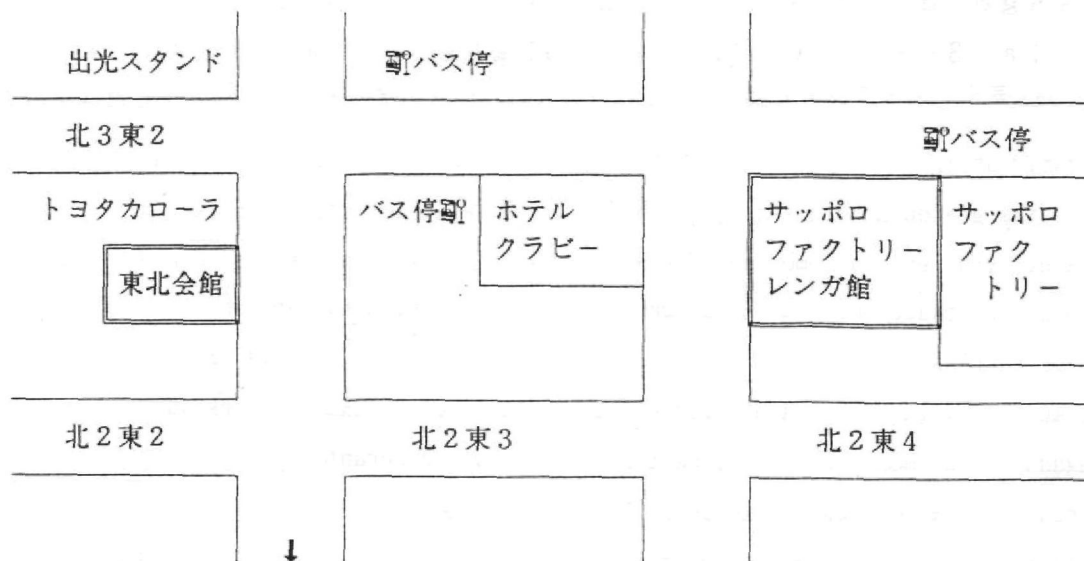
HEL委員会のお知らせ

下記により、第2回北海道エスペラント連盟委員会を行いますので、第59回道大会で委員に選出された皆さま、並びに、ご意見ご協力いただける皆様に、ご出席くださいますようご連絡申し上げます。

★HEL委員会★

日時、場所：1月27日、15時～17時。新年講習会会場にて。

議題：ヘロルド60、61号編集、第9回合宿計画、第60回道大会、講師制度など。



至、地下鉄バスセンター5番出口、徒歩8分

★新年講習会 Teksto について★ (星田)

MIKRONOVELOJ DE SIN' ITI HOSI (星新一短編集) から面白そうなもの4編を選びました。ここに全文を載せるスペースはないので去年の「死者の奢り」の例にならって、大体の筋のわかる「さわり」だけを載せます。この「さわり」の間にどんな展開や「オチ」があるかも想像してください。

Mi petas jam-legintojn de tiuj pecoj, ke ili ne malkaŝu la sekretojn kaj intrigojn por teni la scivolemon ĝis la fino!



Raporto de la unua Komitata Kunveno de HEL

第1回HEL委員会報告

95年9月30日(土) 21時~23時 母子福祉センター
翌1日(日) 17時~18時 教育文化会館

*道大会終了後

[出席者]星田淳、阿部映子、渡辺晋道、
須藤昭三、後藤義治、馬場恵美子

[議事内容]

*公開番組の打合せ、

*新年講習会は札幌で1月27日(土)10時-15時。新年会17時-19時。その間に役員会をおこなう。内容としてはJEI学力検定3級を意識した講習。題材は星新一のショートショート・松葉菊延などから選ぶ。

*合宿は5月24(金)坊~26(日)まで札幌で開催。学力検定を参加者全員が受験する形にする。

*96年北海道大会(60回)は9月28日(土)~29日(日)岩見沢市で開催。

*機関誌の発行については発送先を見直し、テレビ局は催しが有るときだけに。新聞社については正確な宛先を確認する。また地方の講習会の内容やイベントなどを積極的に載せる発行時期とテーマ

11月末号-大会報告、新年講習会案内

1月末号-会員の消息

3月末号-合宿案内

6月末号-合宿報告

7月末号-北海道大会案内

9月末号-北海道大会に向けて

59号
60

事務局からの連絡

*北海道大会での役員改選について
会計監査が金森美子氏から後藤義治氏に交代しましたが前年の役員10人のうち宮沢直人氏は渡米したまま暫く連絡が無いので除き残り9名を留任としたが、大会ではこの点が説明不十分だったことをお詫びして了承を願います。

*連大会でJEI評議員に推薦された星田淳HEL委立は定員と同数の立候補(14名)となり無投票で選任されました。ご支援ありがとうございました

*全国生涯学習フェスティバルは最終的には市内86会場で事業数243、入場者数は76万8千人を数えた。来年は福岡県で11月。それ以降は新潟県、兵庫県、広島県、三重県と毎年行われる。各エスペラント会に資料を送付したが新潟県だけは送り先が見つからず残念。

*本年度道大会の記念品「ĈINAJ KLASIKAJ POEMOJ ILUSTRITAJ」が不在参加者の発送を終えて1部余部が出る。受け取っていない方はご面対でも事務局馬場まで電話(011(761)8060)を願います。尚この本は販売も行い1冊¥700。エスペラントの啓蒙に使う場合は¥600です。一般で買うよりかなりお得です。

*連盟住所表示の変更(11月1日より)

〒053 苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田淳方
北海道エスペラント連盟

*JEI評議員の件、立候補者がちょうど定員14名になり、無投票で全員選任されました。御支持ありがとうございました。女性評議員が倍増、4人になりました。

Sincere via

Asida

Lingvo-instruado kaj la ideo
de internacia lingvo

Kial la angla ununura ne taŭgas por ĝia bezono?

Satoo §.

Asista prof. pri la angla k esperanta lingvoj

Gubernia Kolegio de Iŭate ce Mijako

Prezidanto de N.O.E.L. ; delegito de UEA (instruado)

Antaŭ ĉio mi volas danki tiujn organizantojn kiuj invitis min tre afable por doni al mi grandan honoron paroli hodiaŭ pri la temo "Lingvo-instruado kaj la internacia lingvo: Kial la angla ununura ne taŭgas por ĝia bezono?" Mi ne sciis kial mi tion faru, nek memfidis ĉu mi taŭgus plenumi vian proponon. Mi tute ne konis kion preparoli, ĉar tio ĉi estas tiel serioza temo, ke simpla instruisto pri fremdaj lingvoj ne simple povus tuŝi.

Tamen mi decidis kun ĝojo akcepti tiun ĉi proponon, ĉar miaopinie la HEL-prez. s-ro Hoŝida jam sufiĉe bone konis pri miaj kapablo kaj travivaĵoj. Sed tamen krom tio, li petis min. Se mi malsukcesus tio estus ne nur mia kulpo sed ankaŭ lia, ĉu ne?

Esperantistoj en Hokkajdo ja estas niaj plej proksimaj najbaroj. Hakodate kaj Aomori jam ligiĝis per la tunelo antaŭ deko da jaroj. Tamen al mi ŝajnas ke eĉ tio ne sufiĉis. Ĉar ĝisnuna transporta tendenco estas ke plej multo de vi homoj en Hokkajdo ĝenerale kaj kutime flugas super nia Tohoku-regiono por veturi ĝis Tokio, tute ne tuŝante nian grundon. Ĉiuj informoj ankaŭ super ni forflugas kiam vi veturas rekte tien. Sam-

kiel homoj kaj informoj, ankaŭ turismo. Dumvintre tre multaj feriantoj el Tokio ripetas vizitojn ĉi tien al Sapporo kaj ĝia najbar-eco aŭ por skiadi aŭ por ĝui neĝan festivalon.

Estas do mil kialoj ke mi sincere kaj kore dankas vin pro via bonkoreco voki min okaze de via kongreso. Hodiaŭ mi estus treege feliĉa se vi ĉiu partoprenanto ne nur aŭskultu mian parolon sed samtempe provu interŝanĝi niajn vidpunktojn. Por ke mia parolo estu plej efika mi volas montri al vi konkretajn scenojn el du vidbendoj kiujn mi portis ĉi tien. Unue, ĉu ni ludu pri lingvo-sociologio?

Bonvolu fari notojn pri miaj demandoj kaj, eĉ se vi ne certus pri via solvo, bv. kurage levi vian manon kaj diri al mi vian solvon, ĉar ĉiu demando havas interrilaton kun enhavo de mia prelego por hodiaŭ.

Demando 1a: Proksimume kiom da lingvoj troviĝas en la mondo?

Demando 2a: En EU en kiu membriĝis 15 landoj, kiom da lingvoj estas oficialaj?

Demando 3a: Ĉu la plej granda estas nombro de anglalingvo-parolantoj tutmonde?

Demando 4a: Ĉu vi opinias ke el ĉiuj naci-

lingvoj la angla estas la plej simpla, la plej evoluinta lingvo? (Kaj pro tio ĝi meritas bezonon de la universala lingvo?)

Demando 5a: Kiom da lingvoj funkcias kiel laborlingvoj en UN?

Demando 6a: Kio estas la nacia lingvo en Singapuro? Ĉu la ĉina, malaja, angla?

Demando 7a: Kiom da lernantoj ekzamenigis pri aliaj lingvoj krom la angla en la tutlandaj ekzamenoj pri fremdaj lingvoj ĉi-jare en februaro? Notu ke pli ol 518,000 lernantoj en japanaj supermezlernejoj sidis tie. [* Mi dume montris parton de iu televiddokumentfilmo. (Vidbendo 1a)]

Tiuj kiuj atakas ideon de internacia planlingvo plej ofte diras, ke ĝi estas ne perfekta lingvo pro tio, ke ĝi estas artefarita; homoj tute ne povus nature komuniki homan ideon per tia lingvo. Tamen ĉu ili pravas? Ĉu nacilingvoj estas perfektaj? Kaj ĉu Esperanto estas neperfekta lingvo pro tio? Tute ne. Mi donos kelkajn ekzemplojn.

Ĉiu nacilingvo sonas klara kaj belsona siamaniere al oreloj de sia nacio, ĉu ne? Tutmonde konata estas ke Francoj fieras ke ilia lingvo estas la plej perfekta, la plej klara kaj belsona el ĉiuj lingvoj en la mondo. Sed ĉu Napoleono Bonaparte ne diris ke en lia vartaro ne troviĝas la vorto "mal-ebla"? Sed ne nur tio: en la franca lingvo ankaŭ mankas la antonimo de "profunda". Mankas en la itala tiuj simplaj verboj en la angla, kiel "to hop" aŭ "to skip". Kaj en la anglan oni ne facile povus traduki tiujn nominativojn kiel "ŭabi" aŭ "sabi" en la japana, kaj ankaŭ tiujn ĉi ĉiutagajn simp-

lajn nominativojn kiel "uakame", "nori", "hunori", "iua-nori" aŭ "hijiki" ktp. Verdire neniu nacilingvo estas perfekta, kondiĉe ke ĝi estas nacilingvo. Mi legis artikolon pri anglalingvaj esprimoj, kiu traktis kion diri "undookai" en la angla. Iuj menciis ion kaj aliaj homoj alian. Ho ve, kia stulta debato! En lernejoj en Usono kaj Britio ili tute ne konas "undookai", ĉar tia lernejprogramero ne ekzistas tie.

Antaŭ kvin jaroj en 1990 en urbo Toono okazis nia 31-a Tohoku-Kongreso, en kiu estis planita Forumo por la urbanoj de Toono. Temis pri "La internacia lingvo: kial la angla ne taŭgas por tio?" kaj en tiu forumo kunlaboris du anglalingvaj instruistoj el super-mezlernejo en Toono kaj du esperantistoj Joel Brozovsky kaj Reza Kheir-Khah. Kvankam la lingvo uzita ne estis Esperanto (ĉiuj ili scipovis komune la anglan), kaj la bildo kaj la sono ambaŭ ne sufiĉe klaraj, mi volus vin kaj rigardi kaj aŭskulti eĉ parton el tiuj ĉi scenoj.

[*Funkciigu la vidbendon 2an-ĉ. 15 minutojn.] Vi vidis ke eĉ la angla ne bone funkciis dum tiu ĉi forumo, ĉu ne?

Ankaŭ similan sperton mi havis ĉe la flughaveno de Kantono en 1989. Invitite de du lokaj asocioj en la provinco Kantono, mi vojaĝis sola ĝis plej suda parto de Ĉinio apud la insulo Hainan. Iun tagon, pro neklarigita kaŭzo mia aviadilo ne flugis laŭ ĝia horaro. Ekde frumatene ĝis malfruevespere mi enslogiĝis en granda fumantoplena ĉambro, atendante mian ekvojaĝon. Anoncistinoj aŭdigis kaj ĉinan kaj kantonan kaj ian

nekompreneblan lingvojn al ni. Mi tute ne konis ke ili ja dissendis ankaŭ angle ĝis mi telefone petis lingvan asiston de esperantisto tie!

Lastatempe aŭdiĝis en Japanio stranga esprimo de "internaciigo". En ĉiu parto de nia lando oni diris ke naciismo estas malbona, bona estas internaciismo.

Bonvolu manĝi usonajn pomojn, usonajn cerizojn, pli da aŭstralia bovajo. Kaj bonvolu trinki pli da franca vino aŭ skotaj viskio kaj brando, ktp. ktp. Antaŭ nelonge nia registaro promesis plimultigi importon de usonajn aŭto-pecojn.

Multaj el ni imagas, ke "internaciigo" en nia ĉiutaga vivo estas aĉeti pli da alilandaj produktajoj kaj imiti vivmanieron de alilandanoj. Vi bone rimarkis ke Wicky-san ĉiumatene aperis sur televido, alparolante al preterpasantoj por igi ilin lerni kiel diri kelkajn esprimojn en la angla. Ĉu estas malpermesite en nia lando respondi al demandoj el alilandanoj en nia nacilingvo? Ĉu en Sri-Lanko ili afable respondas japanlingve al japanoj?

Antaŭ pluraj jaroj okazis unufoje en nia gubernio Monda Skiad-Campioneco. Multe da lingvo-kapablaj loĝantoj senpage laboris tie kiel interpretisto-volontuloj.

Abundis anglalingvaj interpretistoj, kompreneble. Tamen ne sufiĉis tiuj kiuj sciopovis la germanan lingvon, kiun plimultaj skiistoj kaj ĵurnalistoj uzis. Do aperis sur nia loka ĵurnalo kritikaj plendoj fare de aŭstria komerca ĵurnalista pri la malmulta nombro kaj mallerteco de germanlingvaj vo-

lontuloj. Kia stulta afero! Ĉu li scias, ke niaj ĵurnalistoj en Aŭstrio ĝenerale elspezas ne-malmulte da mono trovi por si mem taŭgan interpretiston ĉu pri la japana aŭ la angla? Ofte eraras tiukaze Okcidentanoj. Ja kulpis ne japanaj lingvo-volontuloj sed tiu aŭstra raportisto, ĉu ne? Ĉar li avare emis spari kompanian monon dungi taŭgan interpretiston por si mem.

Kio nun okazas kadre de lingvo-instruado en japanaj lernejoj?

Troveblaj estas en eduka politiko de Monbusoo pri lingvo-instruado tri novaj ŝanĝoj -- io bona kaj io grave malbona.

1) Signo de pli da respekto al sia propra kulturo -- Tio estas bona.

Jam uzataj en mezlernejoj du anglalingvaj lernolibroj, en kiuj japanoj sin nomas Sasaki Iĉiroo sed ne Iĉiroo Sasaki -- guste tiel kiel plej multo de homoj en Orienta Azio sinprezentas.

2) Signo de enkonduko de la angla en elementaj lernejoj -- Tio estas grave malbona.

Komence de ĉi-monato mi legis kontraŭdiron de unu el la legantoj sur la Hokkajdo-Sinbun, kiun s-ro Hosida kopie sendis al mi. Tiu homo ja pravas. Ni ne limigu instruadon de nia kara nacilingvo pro fuse planita intrigo anglo-saksigu junan japanon. Bone memoru, ke la sama influo nun invadas ankaŭ elementan edukadon en Koreio -- sub premo de ekonomia kaj politika medio, kompreneble.

3) Signo de diversigo de instruendaj fremdlingvoj -- Tio estas treege bona ideo.

Japana Edukministro raportas la 2-an de aŭgusto 1993 jene: - "Por respondi al evoluo

de internaciigo kaj projekti peli pli multe internacian komprenigon necesas en supermezlernejoj eĉ pli multe peli instruadon de ne nur najbaraj lingvoj en Aziaj landoj, sed ankaŭ diversaj fremdaj lingvoj krom la angla."

Certe estas influo de ankaŭ ekonomia medio pro multaj evoluantaj ekonomioj en Orienta Azio inkluzive de Ĉinio, Koreio, Taivano, Singapuro, ktp. tamen estas bone, ke Monbusoo rekonis tiun ĉi fluon.

Saluto(reaniĝi al HEL)

HEL再入会の弁

名古屋、三ツ石清

北海道の諸君。私には、いくらか痴呆症が始まっているようです。今春、衝動的にJ E I, K L E G, H E Lから退会、購読中止をしました。しかし、夏にその行為が短慮であると思いなをして、96年度の継続会費、購読料まで送金。

来年のJ E IのR O誌に私の文が掲載されるかも。第1話は、小樽港の、第2話は。横浜港の話で、放浪者Kに、私が見えるかも。日本大会会場で渡辺HEL事務局長に声をかけられ、これ幸いと来年度分まで会費を払い再入会しました。

S A T, U E A誌に加え、さらにM o n a t o, L a ŭ t e, F o n t oなどを購読開始、大阪のR i v e r o jと共にモリモリ読んでいます。軽い脳梗塞で右脚が、ピッコ挽きですが、元気です。 m

(友人への共通の手紙)

m i t u i s i k

エスペラント文芸コンクールに入選したので、授賞式に出席のため、少年時代の20年間暮らした港の街、横浜へ行きました。

日本エスペラント大会文芸コンクール

入賞 (第2席) 入選作品

(愛すべきアマチュア泥棒記) シリーズ

a チョコレート泥棒

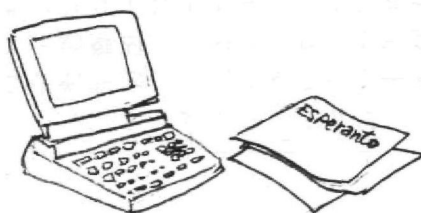
b 阿弥陀の慈悲にすがれ

三ツ石 清 作

入賞は、第一席、第2席、第3席です。第1席入賞はなし。私は、初めての応募ですからこの選外佳作ぐらいをを予想していたが、第2席に入選。第2席と言うことは、いわゆる文学賞としては、入賞作品ではなくて、文学賞候補作に当たるかと思えます。それで、来年の広島の日本文学大会で第1席の入賞(難しいが)を狙って、早々と、参加申し込みをし、参加費4000円送金。大会参加第1号?か、

(註) 作品は日本語で書いたものでなく、エスペラント(世界共通語、国際語)で直接書き下ろしたのです。エスペラントでワープロに入力したのです。エスペラントは、希望する人の意味で、ユダヤ系ポーランド人ザメンホフ博士が、世界の平和と人類の兄弟感情の普遍化を、共通の言語の使用により実現を目ざして、100年前に創案したラテン語に基礎をおく言葉です。文字はローマ字です。私は16才で入門コースを終えて、以来独学、26才でエスペラント学力検定(高等科試験)に合格。戦後は、講習会、合宿等で、大学生、市民、労働者への教育活動に全国的に活動。エスペラントは、アジアでは、中国、韓国、ベトナム等で公認されて、学習が盛んです。

。82才。ボケボケ老作家?・M・



★ 会費のお礼 : HEL DANKAS(-os) POR VIA KOTIZADO ★

今年の大会で、会費の値上げが決められましたので、詳しくは、規約をご覧ください。

95年11月15日現在、下記の方々から95～99年分の会費(家族、購読会費を含む)をいただいています。ありがとうございます。(敬称略、順不同)

会費などを振り込まれる際は、必ず、内容をお書きください。

[95年分会費: 54名]

阿部映子	後藤義治	山本昭二郎	小林貴美子	吉原正八郎	江口音吉
児玉広夫	渡辺康子	宮岸忠孝	桜居甚吉	小熊篁一	馬場恵美子
坂下正幸	星田淳	影浦英明	山岸悦子	赤倉正治	二郷美砂子
岩崎泰夫	柴田智美	末沢邦夫	港利子	大山口誠	濱田國貞
高橋達治	須藤昭三	渡辺晋道	山下博子	伊藤直樹	小川已久雄
金森美子	那須栄	今野弘美	義村政見	横山裕之	大鋸敏雄
沢谷雄一	山口紀代美	加賀谷勇	木村喜壬治	豊蔵正吾	前田幸一
三浦清	梅木孝昭	瀬川綾子	末永章子	新田為男 (故人)	
[家族会費]	星田文子	影浦泰子			
[購読会費]	竹内義一	藤巻謙一	大原喬	三ツ石清	カハラカズヤ

[96年分会費: 28名]

吉原正八郎	児玉広夫	渡辺晋道	柴田智美	高橋達治	義村政見
沢谷雄一	馬場恵美子	木村喜壬治	豊蔵正吾	須藤昭三	星田淳
二郷美砂子	宮岸忠孝	山岸悦子	大鋸敏雄	後藤義治	小林喜美子
川合由香	渡辺康子	末永章子	江口音吉	木村園子	瀬川綾子
桜居甚吉	星田文子(家)	佐藤勝一(講)	三ツ石清(講)		

[97年分会費] 渡辺晋道 沢谷雄一 馬場恵美子 木村喜壬治 児玉広夫
 渡辺康子 江口音吉 瀬川綾子 二郷美砂子 桜居甚吉
 佐藤勝一(講)

[98年分会費] 渡辺晋道 沢谷雄一 二郷美砂子 江口音吉 瀬川綾子
 渡辺康子 桜居甚吉 木村喜壬治 佐藤勝一(講)

[99年分会費] 渡辺晋道 沢谷雄一 二郷美砂子 江口音吉 瀬川綾子
 渡辺康子 桜居甚吉 木村喜壬治 佐藤勝一(講)

[95年9月11日～11月15日の間の一般会計へのご寄付/大会へのご寄付]

水野義明 1,000円	佐藤勝一 12,000円	桜居甚吉 2,000円
末永章子 1,500円	阿部映子 2,500円	岩井正久 1,000円

ありがとうございました。

ŪATANABE Sindoo raportis

北海道エスペラント連盟規約

第1条 (名称) この連盟は、北海道エスペラント連盟 (Hokkajdo Esperanto-Ligo
ないし Hokkajda Esperanto-Ligo) と称し、事務局を北海道内におく。

第2条 (組織) この連盟は、原則として北海道在住のエスペランティストの中の希
望者 (個人会員) および地方会各団体 (団体会員) で組織する。

第3条 (目的) この連盟は、北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、
民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかることを目的とする。

第4条 (事業) この連盟は、目的達成のため、次の事業を行う。

- A. 機関誌、印刷物の発行
- B. 講習会、展示会、合宿などの開催
- C. 国内外のエスペラント団体との共働
- C. エスペラント以外の諸文化団体との提携
- D. その他

第5条 (大会) この連盟は、年1回、北海道エスペラント大会 (Hokkajda
Kongreso de ESPERANTO) を開催する。

第6条 (委員会) この連盟に、次の委員よりなる委員会をおき、連盟の事業を立案
実行する。

- A. 委員長1名、事務局長1名、会計委員1名、および各構成団体、個人会員の中
より選出される委員
- B. 委員長は、この連盟を代表し、委員会を開く
- C. 各委員の任期は、定期大会から次の定期大会までとする

第7条 (顧問) この連盟に顧問若干名をおく。顧問は委員会で推薦する。

第8条 (財政) この連盟の会費 (年額) は、会員3千円、家族会費1千円、購読会
費2千円とする。会計年度は暦年とする。

第9条 (会計監査) この連盟に会計監査を2名おき、会計監査を行い、大会で報告
する。

第10条 (規約改正) この規約は、大会の決議がなければ、変更することができな
い。

[付則]

制	定	1946年09月22日
第1回改正		1948年11月03日
第2回改正		1954年09月23日
第3回改正		1956年09月23日
第4回改正		1962年08月03日
第5回改正		1964年06月07日
第6回改正		1966年07月10日
第7回改正		1972年07月09日
第8回改正		1974年07月28日
第9回改正		1986年09月07日
第10回改正		1989年10月01日 (第6条改正)
第11回改正		1995年09月30日 (第5条:大会名称、第8条:会費、改正)

第8条の執行について、次を付記する。

95年12月31日迄に支払われる会費は、従来通り2,000円で受け付けるが、
2,000円で支払うことのできる会費は、99年分までとする。

札幌エスペラント会から

*ザメンホフ祭 12月9日(土)14時~16時まで
札幌市職員会館(電621-0156) 参加無料
内容:人形劇、ゲーム、バザー(不要の品を当日お持ち下さい、外国からのお客様接待の基金となります。)2月末にはこの職員会館も取壊しとなりますので、この場所では最後と成ります。参加希望者は馬場まで。(電761-8060)
*入門講座が11月4日から行われている。再講習

者を含めて10名。うち道大会の一般参加からは3名。講座の中で早いうちに文通をしてエスペラントの楽しみに触れてもらう予定。とりあえずJEIからリストを貰ったのだが文通相手を探している方はよろしくお願ひします。

*札幌市職員会館・母子福祉センターと取壊しが決まり会場の確保に頭が痛い。「落ち着く先が決まらない」とは不安なものです。

El redaktejo 編集部から

新年講習会のTekstoは、ヘロルドに掲載するつもりでしたが、勉強しやすいように折り込みとしました。講習会参加者は、必ず予習してきてください。当日、都合が悪く参加できない方も、空白部分がどうなっているのかを考えると楽しいと思います。

第59回北海道エスペラント大会では、ここ数年毎回のよう問題となっていた大会名称変更が決まりました。また、会費も改定されましたが、本年12月末日までは従前の金額で受け付けております。本号の4~5頁及び15頁を御参照ください。

大会2日目は、全国生涯学習フェスティバルに参加し、市民向け講演会を開催しました。その内容を本号10~13頁にかけて掲載しております。

なお、大会によせられた、JEI理事長からのメッセージと、渡辺晋道さんの日本大会レポートは、次号掲載とさせていただきますので御了承願ひます。

日本大会でのJEI検定試験に渡辺晋道さんがみごと合格。おめでとうございます。

次号の記事は、会員の皆様の消息や新年の抱負等を中心にする予定です。同封のハガキに近況や希望等を書いて、1月14日までにお出し願ひます。詩やイラストも大歓迎。

(Ejko Abe 阿部映子)

道大会 1日目



Heroldo de HEL

第59号(1995.11.30)

北海道エスペラント連盟機関紙
編集部

〒001 札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付(電)011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟